



FUKUSHIMA 市民インタビュー

このコーナーでは、福島市のさまざまな分野で活躍する人や団体を紹介します。今回は、全国の児童や生徒たちを評価する「チャレンジカップ2017」で地元の名所などを紹介した「松川カルタ」を発表し、グランプリを受賞した「松陵クリエーターズCreators」のメンバーで松陵中学校生徒会長の尾形汐理さん(中学3年生)にインタビューしました。

松川カルタを作り始めたきっかけは？

私が中学1年生の時「地域のつながりが薄くなってきている」と心配した当時の生徒会長の呼び掛けで、地域の方と松陵中の生徒が意見交換する「異世代サミット」を開催しました。その中で、松川の名所などを題材にしたカルタを作るというアイデアが出たのがきっかけです。

どのように作ったの？

まず題材を探すために、松川のイベントに参加して、地域の方に「松川の魅力」を付箋に書いてもらいました。声をかけてみると、私たちが全然知らなかった名所などを詳しい解説付きでたくさん教えてくれました。最終的には大きな模造紙を埋め尽くすほどの付箋が集まったんです。私たちの活動を知って興味を持ってくれる方や協力してくれる方が多くいることに気付きました。

作って何を感じたの？

これまであまり意識し

ていなかった「地域のつながり」を、感じるようになりました。私も地域の一員として周りの人のために何かしたいと思っていたので、地域の方と一緒に作ったものが形になったことがすごく嬉しかったです。

チャレンジカップはどうだった？

全国という大きな舞台で発表することに少しだけ不安ありましたが、「ここまでできなかったらには思い切りやろう」という気持ちで臨みました。グランプリが決まった瞬間は信じられませんでしたが、今はこれまでやってきて良かったという達成感でいっぱいです。グランプリをもらえたことで私たちの地元「松川」の名前を全国に発信できて感動しています！

今後の活動は？

松川カルタは、遊びながら松川について知ることができます。しかし、1セットしかないのが、地域の皆さんと一緒に遊べるよう、このグランプリ受賞を第一歩にして、カルタを製品化できればいいなと思います。私たちの大好きな松川を全国

にもっと発信していくために活動を続けていきます。



松陵中学校生徒会員の皆さん(左から伊藤琢人さん、蓮田拓海さん、田中紘成さん、尾形汐理さん、丹野見南さん、高橋愛美さん)

市長コラム No.15

「素晴らしい音楽を身近な市役所で」

福島市長 小林 香



福島市市制施行110周年を記念し、市役所本庁舎1階で市民の皆さんに気軽に音楽に親しんでいただくため、ロビーコンサート(月1回程度、午後0時15分からの約30分間)を開催していきます。



▲ソプラノ歌手の紺野恭子さんとピアニストの藤田清香さん(左)

第1回目の5月9日には、ソプラノ歌手の紺野恭子さん(福島市出身)、ピアニストの藤田清香さんをお迎えしました。市役所にプロの音楽家の素晴らしい歌声と演奏が響き渡り、訪れた多くの方々にお楽しみいただけたと感じています。名誉市民第1号の故古閑裕而氏が作曲した「高原列車は行く」や「栄冠は君に輝く」など、市民になじみ深い曲も披露され、140人を超

える鑑賞者の中には手拍子をしたり、一緒に口ずさんだりする方もいらっしゃいました。市民に身近な市役所で、生の音楽に触れ、見て味わっていただけたことをとてもうれしく思います。6月以降も開催しますので楽しみにしてください(裏表紙参照)。

また、プロ・アマを問わず、日頃の練習の成果を披露する場としてもご利用いただけるように、出演者を募集していきます。

私は、このロビーコンサートを市民の皆さんにとっては音楽にじかに触れられる、音楽愛好家や学生の皆さんにとっては夢を実現できる、福島市の芸術文化の振興につながる場にしたと思っています。そして、このコンサートをきっかけに足を運んでいただくことで、市民に開かれ、親しまれる市役所を目指していきたいと考えています。

CDやテレビなどで音楽を楽しむ機会は多々ありますが、このロビーコンサートは身近な場所で生の音楽に触れられる貴重な機会だと思います。多くの皆さんのご来庁を心よりお待ちしております。